チャレンジしたい方の相談窓口

近藤　央
（大仙市地域おこし協力隊）
（大仙市役所 商工業・チャレンジ振興課所属）

1　大仙市地域おこし協力隊を選んだ理由

私は秋田市出身で、県外の大学を卒業後、秋田市に戻り税理士法人やコンサルティング会社に勤め、民間企業の監査や経営支援に携わりました。そこで大仙市の事業者の方と仕事をする機会があり、会話の中で「だいせんLabo」の存在を知りました。若者が地域で活躍できるように起業や地域での活動をサポートする専門の部署を大仙市が立ち上げたということで、大変興味深く感じていました。

それからしばらく経ち、今後の自分のキャリアを考えていたところ、だいせんLaboで働く地域おこし協力隊が募集されていることを知りました。大仙市とは個人的な縁はありませんでしたが、だいせんLaboにはかねてより興味があり、また広い範囲で多くの方の役に立つような仕事をしたいと考えていたこともあり、応募を決意しました。

2　活動ミッション

活動のミッションは若者がチャレンジできる環境づくりの推進です。だいせんLaboでさまざまなチャレンジの相談に対応するとともに、若者を主な対象とした各種事業の運営に取り組んでいます。

だいせんLaboでは、若者をはじめとした幅広い世代の方から、起業・経営に関することや地域課題解決の取り組みなど、大仙市を舞台にした多様なチャレンジの相談を受け付けています。発足して４年目を迎え、昨年度までに600件を超える相談が寄せられました。相談の内容としては、初めて起業する方からの相談が多いです。

起業するために必要な基本的なことや、活用できる補助金の情報提供から、事業をかたちにするための事業計画の策定支援まで行っています。また、地域でこんな活動をしたいという方には、活動の具体化のお手伝いをしたり、関係しそうな方や活用できそうな仕組みを紹介したりしています。企画書作成のサポートなども行います。

ほかにも今までに構築したつながりの中から、金融機関や専門家の方の紹介、相談者同士のマッチングなども行っています。主にInstagramでだいせんLaboの活動を発信していて、相談対応の内容や進行中の事業の様子、関連するイベント情報等を紹介しています。大仙市で起業したい方、やりたいことを通じて地域を元気にしたい方、将来を考える若い方に役立ててもらえるような発信を心がけています。

（企画書作成のサポートなども行います）

３　女性が活躍しやすい環境づくり

だいせんLaboでは、女性が社会で活躍しやすい環境づくりに向けて、大仙市で事業を営む方や、地域の活性化に関心のある方などを対象に、仲間とのつながり、情報の交換、挑戦の一歩を踏み出せるコミュニティとして「Daisen Woman」を主催しています。

普段はＬＩＮＥのオープンチャットを利用して、メンバー同士が意見や情報の交換を行っています。年に数回交流会を実施し、つながりの輪を広げています。移住されてきた方などには、「友達ができない」などの悩みを抱えている方もいるので、そうした問題解決にもこの場を利用していただければと思っています。

（Daisen Womanメンバーの皆さん）

４　相談者の取材

だいせんLaboに相談のあった方の、その後を取材することも活動の一環です。実際にお仕事や活動をされている場で改めてお話を伺うと、その場の空気感やその方のうれしかった、苦労したという思いがリアルに伝わってきます。その方の思いや大事にしていることを掘り下げてＳＮＳで発信することで、アフターケアにもつながっています。今後も大仙市内で新たなことにチャレンジしたいと考えている方々をサポートすることで、地域活性化につなげていきたいと思っています。

＜担当者から一言＞

大仙市では令和８年３月１日現在、今回寄稿した５名の協力隊が在籍しております。

所属、活動内容は異なりますが、全員が秋田県出身で、「秋田が好き」という気持ちと、「大仙市を盛り上げたい」という熱い思いは共通しています。

大仙市は平成17年に８つの市町村が合併して誕生しました。「大曲の花火」が有名ですが、広域にわたる各地域には、祭りや行事、特産品など、まだまだ魅力ある地域資源がたくさんあります。地元に住んでいる人が気づいていない大仙市の良さを隊員の皆さんに掘り起こしていただき、継続して大仙市の魅力を市内外にＰＲしていきたいと思います。

今後も、市の掲げる「人が活き　人が集う夢のある田園交流都市」を目指して、隊員と地域が一体となって、活力あるまちづくりに取り組んでまいります。

（大仙市企画部移住定住促進課
佐々木　翔）